

## 平成23年度ごみゼロ施策の取組結果の報告

## 1 生ごみの減量化に向けた取組

## (1) もったいない普及啓発事業

- ・平成23年度には、生ごみの減量化に向けたソフト事業として、小学生向けのテキスト「めざそう！もったいない名人」（完成版）を作成しました。
- ・このテキストは、生ごみの削減や資源化を進めるため、小学生にごみ問題の現状から実際の行動事例までを分かりやすく伝えることで、家庭での取組を進めてもらうことを目的に作成したものです。
- ・このテキストの特徴は、以下のとおりです。
  - ①小学生に「もったいない」という気持ちを持つことの重要性を伝える。
  - ②ごみ問題、とりわけ生ごみの問題の現状を伝える。
  - ③「もったいない」という気持ちから3Rの行動へのつながりの重要性を伝える。
  - ④生ごみを減らすために小学生が家庭でできることを分かりやすく紹介し、食育の視点も加えながら、家庭での取組を促す。
- ・今後は、食生活改善推進員等と連携し、モデル的に小学校で出前授業を実施するなどの取組を進めていくこととしています。
- ・また、生ごみの削減、資源化を進めるためには、市町の収集や処理などのハード面の対応との連動が必要なため、将来的には、このソフト事業の展開は、ハード面と連動した形で市町により行われることが効果的と考えています。

## (2) 食品リサイクルループ認定事業

事業系一般廃棄物の生ごみ（食品残渣）を削減するため、事業者が排出する生ごみ（食品残渣）を原材料として製造した肥料等を地域の農畜水産業において活用し、できた作物等を事業者に戻元する循環型のネットワーク「食品リサイクルループ」を構築するための基礎調査を行いました。

委託事業により排出事業者及び農家へのアンケート調査を行い、食品残渣をリサイクル業者に搬出するための要件及び食品残渣の発生量と処理の流れの把握、農家における堆肥の利用実態及び利用可能性調査を行いました。

## 2 市町・NPO・地域団体等と連携した取組

### (1) ごみゼロプラン推進モデル事業の実施状況と成果の普及

#### ●ごみゼロプラン推進モデル事業の実施状況

平成17～22年度において、市町が行う先駆的・実験的なモデル事業に対し支援を行ないました（表1）。

このモデル事業については、6年間の実施により一定の成果が蓄積されたことから、平成23年度からは、これらの市町の事業の推移を点検・評価していくとともに、成果のあった事業の水平展開を図っていくことに重点を移すこととしました。

表1 ごみゼロプラン推進モデル事業の実施状況

年度	市町名	事業名
22	名張市	生ごみ等の回収及び資源化システムの実証実験事業
	伊勢市	事業系ごみの減量化等に関する検討事業
	大台町	地域密着型生ごみ等の回収・資源化システム構築検討事業
21	鳥羽市	島内における資源循環モデル検討事業
	名張市	福祉・地域づくりと一体となったごみ収集システム等検討事業
	四日市市	複合的なごみ減量・リサイクル施策検討事業
20	伊賀市・名張市	レジ袋有料化検討事業
	松阪市等（※）	レジ袋有料化検討事業 ※松阪市・多気町・明和町・大台町・玉城町・大紀町
	鳥羽市	事業系食品廃棄物再資源化システム検討事業
19	伊勢市	レジ袋削減（有料化の導入）検討事業
		埋立ごみ（ガラス等）の分別収集システム検討事業
	津市	エコパートナー・ネットワーク推進事業
18	東員町	町民参画によるごみ処理基本計画づくり
	鳥羽市	リサイクルパーク整備・運営事業
		事業系ごみ減量化手法検討調査
17	桑名市	市民参画によるごみ処理基本計画づくり
	伊賀市	家庭ごみの有料化制度の導入検討
	紀宝町	生ごみ堆肥化システムの実証実験

## ●その後の推移と成果の普及

各市町の事業の推移については、伊勢市から始まったレジ袋の有料化の取組が、順次広がりを見せ、平成24年4月から菰野町で事業者の取組みとして実施されたことにより、現在県内29市町（人口カバー率100%）で実施されるなど、着実に成果を見えています（表2）。

表2 主なモデル事業のその後の推移

年度	市町名	事業の成果	その後の推移
22	伊勢市	・事業系ごみの組成分析調査を実施 ・生ごみ分別排出へは事業者の一定の理解がある	・スーパー2社が自主的に厨芥類の堆肥化を開始
17	紀宝町	・84世帯、8事業所が生ごみ堆肥化実証試験に参加	・現在150世帯、9事業所まで参加者が増加し32トンの生ごみを堆肥化
18	鳥羽市	・NPO運営のリサイクルパークを整備	・22年度リサイクルパーク利用者数21,646人、資源回収量250tまで増加
21	鳥羽市	・離島である神島で生ごみのリサイクルプラントを構築	・収集運搬費用の削減 ・島内でのループの確立
21	名張市	・拠点回収の確立 ・要援護者世帯の安否確認を兼ねたボランティアによる戸別回収	・3地区650戸で有償ボランティアが安否確認を行いながら戸別に回収 ・収集コスト削減、環境負荷低減
17	伊賀市	・家庭ごみ有料化の提言 ・ごみ分別ハンドブックの作成	・19年から有料化を実施 ・有料化から3年経過しても減量効果は継続

また、モデル事業の成果の普及については、昨年度、行政連絡会議において、名張市のごみゼロに向けた取組について25市町、6組合の一般廃棄物行政担当者に対し情報共有を行いました。

## (2) 地域ごみゼロネットワークの実施状況

ごみ減量化や資源化などの環境配慮の取組の広域化・活性化のため、日頃から住民やNPOとの関わりが深い地域機関のネットワークを活用し、住民やNPOなどとの協働によりワークショップやイベントなどの事業を実施しています。平成23年度の実施状況は表3のとおりです。

表3 地域ごみゼロネットワーク実施状況

地域機関	名称	概要	参加者数
桑名	ごみゼロネットワーク推進交流会 in 三里まつり	三里まつりに出展	約800名
四日市	鈴鹿川流域の環境展	ごみゼロクイズラリー／エコフラワーを作ろう／ゼロ吉ぬりえ	約200名
津	循環野菜の収穫体験と生ごみの堆肥化見学ツアー（有限会社三功様）	生ごみ堆肥化見学／循環野菜の収穫体験	30～40名
松阪	ごみゼロフェスタ 2011	生ごみ堆肥作り体験実演／ごみ収集車の展示／エコ紙芝居など	約300～500名
伊勢 尾鷲 熊野	東紀州・伊勢志摩ごみゼロネットワーク	尾鷲檜の廃材を使用したマイ箸やコサージュ作り体験	120名
伊賀	伊賀地域ごみゼロ推進交流会	講演「ごみを出さない日本の知恵」／マイ箸づくり体験	約100名

(3) 一般廃棄物行政連絡会議の実施状況

本連絡会議は、一般廃棄物行政の様々な課題に対応するため、県内市町、国、県が連携を図り、情報共有や意見交換などを行うことを目的に実施しています。

平成23年度の実施状況は表4のとおりであり、今後も市町のニーズに応じて、タイムリーな話題も取り上げながら実施してまいります。

表4 一般廃棄物行政連絡会議の実施状況

	日時	主な議題	参加数
第1回	平成23年10月14日	・最近の廃棄物行政に関する情報提供（国） ・ごみゼロに向けた名張市の取組（名張市）	25市町・6組合
第2回	平成24年3月14日	・生ごみ資源化の手法別効果の調査結果報告（県） ・四日市市の資源ごみ持ち去り対策（四日市市）	22市町・3組合

#### (4) ごみ処理システムの最適化

##### ●市町ごみ処理カルテとは

市町が把握・公開していたこれまでのごみ処理に関するデータに加え、廃棄物会計のコスト情報や環境負荷の評価結果、住民や事業者の取組状況等のデータを用いて、ごみ処理システムの現状や課題について総合的に分析することにより、強みや弱みを明確にするためのツールです。

##### ●平成20年度に作成したパイロット版に以下の改良を加えました。

- ① 過去の実績（データ）と比較できるようにしました
- ② 指標の経年変化の表示等をできるようにしました
- ③ 県内の市町及び一部事務組合等に限って廃棄物会計のデータをごみ処理カルテに取り込み、情報を共有できるようにしました

##### ●ごみ処理カルテの活用方法

ごみ処理カルテを用いて、市町は以下のような情報を得ることができ、いろいろな場面で活用することが可能となります。

##### ①廃棄物処理システムの状況を示すレーダーチャート

レーダーチャートによって、各市町の廃棄物処理の長所と短所を視覚的に確認することが可能です。

##### ②類似市町村や県内市町の指標データ

類似市町村のデータを参照できるので、それぞれの指標毎に優良な市町村を全国から探すことができます。施策の参考とする市町村のヒントが得られる他、議会や住民と行う先進地視察の場所をこれらのデータから探すことも可能です。

##### ③廃棄物会計

一般廃棄物の処理に係る原価を他の市町及び一部事務組合（県内）と比較することができるため、経済的に効率が悪いごみの種類を特定することが可能です。また、市町や一部事務組合間の比較により、より原価の安い市町等を把握できるので、経済性を改善するための手がかりをつかむことができます。

### 3 ごみゼロ普及啓発

平成23年度に実施した普及啓発活動については、表5のとおりです。今後も、ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」を活用したごみ減量化の広報、普及啓発を行っていきます。

表5 ごみゼロ普及啓発の実施状況

普及啓発方法	詳細	回数等
イベント参加	・みえこどもエコフェア（3択クイズ） ・環境フェア2011（展示）	2件
県庁見学	・小学生の社会見学の受入	6回
普及啓発物品の製作	・クリアフォルダ ・シール ・鉛筆 ・消しゴム	5,000枚 10,000枚 7,200本 3,000個
ゼロ吉貸出	・各団体等へのゼロ吉貸出	25回